

修士論文(要旨)

2009年7月

地方小都市における日本語教室  
—日本人と外国人の関係性を中心に—

指導 佐々木倫子 教授

国際学研究科

言語教育専攻

207J4004

市川恭子

## 目次

第1章 研究の背景と目的	
1.1 研究の背景と動機	1
1.2 研究の目的	1
第2章 先行研究	
2.1 生活者としての外国人	2
2.2 生活者としての外国人への活動	2
2.3 日本語教室における「先生」と「生徒」	3
第3章 調査概要	
3.1 調査協力者	5
3.1.1 日本語教室 S	5
3.1.1.1 日本語教室 S 日本人参加者	5
3.1.1.2 日本語教室 S 外国人参加者	6
3.1.2 日本語教室 G 日本人参加者	6
3.1.3 日本語の会 K 日本人参加者	7
3.1.4 首都圏内で活動している日本人参加者	7
3.2 調査方法	8
3.2.1 インタビュー調査	8
3.2.1.1 日本語教室 S 日本人参加者	9
3.2.1.2 日本語教室 S 外国人参加者	9
3.2.1.3 日本語教室 G 日本人参加者	10
3.2.1.4 日本語の会 K 日本人参加者	10
3.2.1.5 首都圏内で活動している日本人参加者	10
3.2.2 調査者による教室の観察ノート	11
3.3 文字化の原則	11
第4章 調査結果と分析	
4.1 日本語教室 S 日本人参加者	12
4.1.1 活動意識	12
4.1.2 呼び名	20
4.2 日本語教室 S 外国人参加者	25
4.2.1 活動への期待	25
4.2.2 活動意識	30
4.2.3 呼び名	37
4.3 日本語教室 G 日本人参加者	42
4.3.1 活動意識	42
4.3.2 呼び名	44

4.4	日本語の会 K 日本人参加者	45
4.4.1	活動意識	45
4.4.2	呼び名	47
4.5	首都圏内で活動している日本人参加者	49
4.5.1	呼び名	49
第5章	考察とまとめ	56
5.1	参加者の活動意識と変化	56
5.1.1	日本語教室 S 日本人参加者	56
5.1.2	日本語教室 S 外国人参加者	57
5.1.3	日本語教室 G 日本人参加者	58
5.1.4	日本語の会 K 日本人参加者	58
5.2	呼び名に対する意識	58
5.2.1	日本語教室 S 日本人参加者	58
5.2.2	日本語教室 S 外国人参加者	59
5.2.3	日本語教室 G 日本人参加者	60
5.2.4	日本語の会 K 日本人参加者	60
5.2.5	首都圏内で活動している日本人参加者	61
5.3	まとめ	61
第6章	今後の課題と提案	63

謝辞

参考文献

参考ウェブサイト

## 要旨

近年、留学生 10 万人計画に続く 30 万人計画、外国人労働者の雇用、そして、親の雇用に伴い越境する子どもたちなど、日本に在住する外国人の定住化が進んでいる。そのような現状を反映して、地域社会で個人や団体等が「生活者」としての外国人の日本語の学習に何らかの形で関わる活動が急速に広がっている（山田 2002:118）。稿者は、I 県 O 市にあるボランティア日本語教室 S でボランティアとして活動している。そこでの主な活動は、週に一度 2 時間、近隣に在住しているニューカマーの外国人に対する日本語学習支援である。稿者は、そこでの約 2 年間の活動を通し、教室を運営している日本人参加者が「先生」、外国人参加者が「生徒」という位置づけにあることに気がついた。ボランティア日本語教室 S の「日本人」と「外国人」の関係性について考察することで、今後の地域の日本語教室の目指すべき姿を提示できるのではないかと考え、本研究に至った。そして、本稿では、日本語教室に存在する「先生」と「生徒」という関係性はなぜ生まれるのか、日本人参加者と外国人参加者はその関係性をどう捉えているのだろうかという疑問を出発点に、両参加者の意見を含め、「先生」、「生徒」という位置づけがされているのかを明らかにしたい。そして、彼らの目指している関係性及び活動から、今後の日本語教室の目指すべき姿について提案したい。

日本語教室における「先生」と「生徒」についての先行研究には、森本（2003）と OHRI（2005）が挙げられる。両研究では、「共生」を目指す地域の相互学習活動を批判的に再検討し、その「先生」と「生徒」の関係性は権力関係を含んでおり、協働学習を妨げる要因になっていると述べている。しかし、ともすれば、日本人参加者の声に傾きがちである。よって、本研究では、日本語教室の現状について両者の関係性を中心に分析し考察する。

本調査では、日本語教室 S の日本人参加者 4 名と外国人参加者 3 名へのインタビュー調査と参与観察を行った。そして、日本語教室 S と交流のある隣の市、I 市で活動をしている日本語教室 G の日本人参加者 1 名、都内 M 区の日本語の会 K で活動をしている日本人参加者 1 名、首都圏内のボランティア日本語教室で活動をしている日本人参加者 2 名のインタビュー調査を分析に加えた。

調査結果から、「参加者の活動意識と変化」、「呼び名に対する意識」、という 2 つの項目が浮かび上がった。まず、日本語教室 S の日本人参加者は、日本語の学習支援は、外国人参加者との交流の一つの形だと捉えているようであった。しかし、現在は、活動意識が日本語を教えることに集約されており、そこに変化が見られる。一方、外国人参加者は、活動を始める前の「日本語を勉強したい」という期待が満たされており、また、日本語を勉強することだけでなく、日本語教室 S を「友人」「家族」の場と捉えていることがわかった。

さらに、「呼び名」についてだが、日本人参加者は全員「先生」と呼ばれており、その理由として、「名前が覚えられない」、「教える人への配慮」を挙げている。それに対し、外国人参加者は、「教えている人だから」に加え、「尊敬」、「友人」、「母親」と言うような感情を含めていることがわかった。以上のように、「呼び名」には参加者それぞれの思いが込められており、外国人参加者が思っている通りには日本人参加者に伝わっていないことが明らかになった。

本研究がやり残した課題は大きい。今後は、より精密な日本語教室の参加者間の関係性を明らかにし、今後の地域の日本語教室のあり方について外国人住民とともに考えていきたい。

## 参考文献

- 足立佑子 (2006) 「地域の日本語教室とその役割」国立国語研究所 (編) 『日本語教育の新たな文脈ー学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性』アルク pp.103-118
- OHRI RICHIA (2006) 「『共生』を目指す地域の相互学習型活動の批判的再検討ー母語話者の『日本人は』のディスコースからー」『日本語教育』126号 日本語教育学会 pp.134-143
- 岡崎眸 (2008) 「日本語ボランティア活動を通じた民主主義の活性化ー外国人と日本人双方の『自己実現』に向けてー」『日本語教育』138号 日本語教育学会 pp.14-23
- 佐々木倫子 (2006) 「第5章パラダイムシフトに向けて パラダイムシフト再考」国立国語研究所 (編) 『日本語教育の新たな文脈ー学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性』アルク pp.258-283
- 許之威 (2009) 「『地域日本語教育』とは何かー新たなパラダイムを目指した批判的考察ー」多言語化現象研究会 第1会研究大会発表資料
- 多文化共生キーワード事典編集委員会 (編) (2004) 『多文化共生キーワード事典』明石書店
- 西口光一 (2008) 「市民による日本語習得支援を考える」『日本語教育』138号 日本語教育学会 pp.24-32
- 野山広 (2008) 「多言語・多文化社会に対応した日本語教育の在り方に関するー考察ー野山班 (2007年度) の活動を通して見えてきたことー」『シリーズ多言語・多文化協働実践研究5 野山班 07年度活動 地域日本語教育から考える共生のまちづくりー言語を媒介とともに学ぶプログラムとはー』東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター pp.85-100
- 林四郎・相澤正夫・大島資生・篠崎晃一 (編著) (2007) 『例解新国語辞典 第七版』三省堂
- 古川ちかし・山田泉 (1996) 「地域における日本語学習支援の一側面」『日本語学』第15巻第2号 明治書院 pp.24-33
- 森本郁代 (2001) 「地域日本語教育の批判的な再検討ーボランティアの語りに見られるカテゴリー化を通してー」野呂香代子・山下仁 (編著) 『正しさへの問いー批判的社会言語学の試みー』三元社 pp.215-247
- 山田泉 (2002) 「第14章 『地域日本語教育』の二つの在り方とその教授者のネットワーク」『日本語境域における教授者の行動ネットワークに関する調査研究ー最終報告ー』日本語教育学会 pp.176-189
- 山田泉 (2002) 「第8章 地域社会と日本語教育」細川英雄 (編) 『日本語教師のための知識本シリーズ② ことばと文化を結ぶ日本語教育』凡人社 pp.118-135
- 山田泉 (2003) 「第1章 日本語教育の文脈を考える」『日本語教師のための知識本シリーズ③ 人間主義の日本語教育』凡人社 pp.9-43
- J.V.ネウストプニー・宮崎里司 (編) (2002) 『言語教育の方法』くろしお出版

参考ウェブサイト

朝日新聞記事データベース

<http://database.asahi.com/library2/main/start.php?loginSID=e1df99c441b3f27b9a76e9b639f8894d> (最終アクセス日 2009年7月7日)

The JET プログラム 公式ホームページ

<http://www.jetprogramme.org/j/index.html> (最終アクセス日 2009年6月25日)

日本語能力試験 公式サイト

<http://jlpt.jp/> (最終アクセス日 2009年6月23日)

法務省入国管理局

<http://www.immi-moj.go.jp/toukei/index.html> (最終アクセス日 2009年6月25日)